

- いわゆる正社員と同様に無期労働契約でありながら、**職種、勤務地、労働時間等が限定的な「多様な形態による正社員」**の導入は、**非正社員にとって正社員転換の機会を拡大**する可能性。**正社員にとってもワーク・ライフ・バランスの実現**等につながることを期待。
- このため、**労使双方の実態**を踏まえた創意工夫ある取組を通じて、**多様な形態による正社員が「一人ひとりの労働者が満足できる働き方」として活用**されるよう、**環境整備を進めていく**ことが求められる。
- * なお、「**望ましい働き方ビジョン**」でも、**正規雇用化を進めるに当たって、雇用の安定と典型的な正社員との処遇の均等・均衡を前提条件とした上での「多様な形態による正社員」に注目**している。

多様な形態による正社員の活用の状況

- ・ **約5割**の企業が導入（**職種限定：約9割、勤務地限定：約4割、労働時間限定：1～2割**。複数組み合わせ有。）
- ・ 導入目的としては、**人材確保・定着の必要性、ワーク・ライフ・バランス支援**が多い。
- ・ **男性の方が多い**とする企業は**約5割**、**女性の方が多い**とする企業は**約4割**で、ほぼ**同程度**。
- ・ **賃金**はいわゆる正社員の**8～9割程度**、**昇進・昇格は上限あり**、**事業所閉鎖時等の人事上の取扱いはいわゆる正社員と同様**とする企業が多い。（企業アンケート）
- ・ いわゆる正社員と同様の水準を求める者：**賃金は4割程度、雇用保障は8割程度**。（従業員アンケート）

多様な形態による正社員のメリット等

- ・ 企業のメリット：**「人材の確保」、「多様な人材の活用」、「人材の定着」、「業務の効率化」**などが多い。
- ・ 従業員のメリット：**「雇用が安定していること」が約6割**。「**遠方への転勤の心配がないこと**」も**約3割**と多い。
- ・ **今の働き方に満足している**多様な形態による正社員は**半数超**。（非正社員は**4割程度**）
- ・ **非正社員は約5割**が多様な形態による正社員への転換を希望。いわゆる正社員も、**勤務地限定では約6割**が転換を希望。

多様な形態による正社員の活用に当たっての留意事項等

非正社員からのステップアップ	非正社員から正社員へのステップアップのために活用。 （安定した雇用の下、職業能力の向上を図り、希望に応じた働き方を実現できる形態として活用。）
正社員区分間の転換	相互転換しやすい柔軟な仕組み とすることが重要。 （特定の正社員区分への固定化の防止、ワーク・ライフ・バランスの実現等の観点）
処遇や能力開発機会等の均等・均衡	労使の協議 を踏まえ、働き方に応じていわゆる正社員との 均等・均衡を考慮 。 （転居・転勤の範囲に応じた賃金制度・水準とする、短時間勤務ではいわゆる正社員と同一の賃金制度とした上で時間比例とする等）
事業所閉鎖時の対応	いわゆる正社員に関する取組と 均衡 が図られるよう最大限努力。
従業員尊重のアプローチ	労使の話し合い や従業員への十分な説明などの取組が重要。